

2016年05月24日 17:07

祭りの火流しにバイオ燃料作り 水橋西部小

チェック ツイート いいね! 1 G+ 0

環境に優しいバイオ燃料を作る出前授業が24日、富山市水橋西部小学校で行われた。7月23日に開かれる「水橋橋まつり」の火流しに使うため、6年生29人が富山大工学部の星野一宏准教授に教わり、給食室から出た廃油を使って作業に取り組んだ。



水橋橋まつりでは6年前まで火流しに灯油を使っていたが、煙と臭いが強く環境に悪いとの声があったため、富山大に相談してバイオ燃料に切り替えた。出前授業は5年前から毎年、水橋地域の小学校5校で行っている。

星野准教授からバイオ燃料の作り方の説明を受け、児童たちは慎重に作業に取り組んだ。給食室で古くなった食用油をペットボトルに入れ、薬品を加えて湯せんで温め、5分間振って混ぜ合わせた。飯干拓真君は「上手に作って火流しの燃料にしようと頑張った」と話した。

ペットボトルの中で分離した上の部分がバイオ燃料となる。31日にも出前授業があり、バイオ燃料を実際に燃やしてみる。まつりでは、段ボールのパッドにバイオ燃料を含ませた綿を載せ、火を付けて白岩川に流す。

水橋橋まつり実行委員会の地橋保男さんは「子どもたちにまつりをより身近に感じ、環境保全に理解を深めてほしい」と話していた。

